

第7回群馬県世界遺産専門委員会 議事録（概要）

日 時：令和元年8月6日（火）12：35～16：00

場 所：境島村公民館

1. 開会

2. 挨拶 世界遺産課長 荻谷委員長

3. 議事

（1）報告事項

①構成4市町

- ・各資産の保存管理・修理の全体計画
- ・各資産の保存管理・修理の現状
- ・調査研究の取組（民間団体の取組も含む）

4市町より、各構成資産の保存管理・修理の全体計画と現状、調査研究の取組について報告。

②県

- ・世界遺産センター整備の進捗状況
- ・世界遺産来訪者調査分析事業（地域文化財総合活用推進事業）
- ・調査研究の取組（民間団体の取組も含む）

事務局から、世界遺産センターの進捗状況（令和2年3月オープン予定）、来訪者調査事業の概要、調査研究の現状について報告。

（2）協議事項

- ・平成30年度モニタリング調査結果
- ・遺産影響評価

事務局から、平成30年度モニタリング結果の概要、4市町から保存管理等における課題とその対応について報告し、それぞれの対応についてを、また、事務局から遺産影響評価について、OUVに基づく属性、遺産影響評価の対象となりうる行為についての案が提示され協議された。

【委員等からの主な発言】

（1）報告事項

高山社跡の保存修理について

- ・高山社跡のカンソウバについての調査はどうなっているのか。上屋は復元するのか。
- 建物は復元せず、遺構に陶板をかぶせてカンソウバがあった場所について見せる予定である。

来訪者調査分析事業について

- ・維持管理の問題はあるが、アンケートのプラットフォームを作るのはどうか。
- ・ヒアリング調査は、調査員の習熟度が結果に大きく関係する。
- ・今は、ビッグデータを使う時代。画像検索サイト等のビッグデータを活用、分析することも考えてはどうか。
- ・アンケート結果は積み上げて、比較できるようにしていくことが必要。
- ・登録時の人数と比較され、来訪者が減ってきているとされているが、比較する人数をしっかりと考えるべきである。価値について理解できるのは、それぞれの資産で何人までが適当なのか。そのようなことを考え、基準となる人数を設定し、その数値との比較をしていくことが大切であろう。

(2) 平成 30 年度モニタリング結果

田島弥平旧宅周辺の大型養蚕農家群について

- ・田島弥平旧宅周辺の養蚕農家農家群は、『島村の蚕種製造民家建築群』という冊子にまとめられているように価値がある。保存管理について考えていってもらいたい。

遺産影響評価について

- ・OUV の整理が必要。景観条例や景観計画等も含め、住人にどう説明していくか。景観重要構造物への補助は微々たるもの。
- ・登録の頃からは想定されないことが問われている。長崎では、ガイダンス施設等、利便施設に対する議論が出てきている。後追いで、様々なことが出てくる可能性があるので、完全に予防するのは不可能。ある程度、耐えられるように議論を積み重ねていくことが大切。
- ・「ここは変わってしまっは困る」という対象や場所を早く選定し、重要建造物等にしていくのはどうか。
- ・重要建造物は名誉の面もある。市が出すお金は限られている。
- ・地区や住人の誇りと向き合う。そのことが保存のベースになる。
- ・所有者が価値を感じている場合、行政が保存のシステムを作ればのってくるのではないか。
- ・緩衝地帯では、歩いて回れる範囲、縦横 500m くらいになると思うが、周遊コースなども意識して、考えていく必要がある。
- ・規制でがんじがらめにならず、新しい考えも取り入れながら柔軟に対応していくことが必要。